

市立学校に係る部活動の方針

函館市教育委員会では、「北海道の部活動の在り方に関する方針」に基づき、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮するとともに、教師の部活動指導における負担を軽減し、部活動を合理的かつ効率的・効果的に行うことを目的に、「市立学校に係る部活動の方針」を平成 31 年 3 月に策定、令和 5 年 3 月に改訂しています。

◇ 休養日・活動時間の設定（中学校・高等学校段階共通）

<休養日>

・週当たり 2 日以上

（平日 1 日以上，週末 1 日以上，年間 104 日以上）

・学校閉庁日（年末年始の休日を含む）



<活動時間>

・平日：2 時間程度

※18 時完全下校

・学校の休業日：3 時間程度



【高等学校段階における弾力的な運用】

高等学校段階においても上記の基準を基本としますが、中学校段階の基礎の上に多様な教育が行われていること、部活動と密接に関わる分野への進路希望を有する生徒もいることなどから、一定の要件※の下、弾力的な休養日・活動時間の設定も可能です。

※一定の要件：部活動指導に係る教員の負担軽減につながる方策を講じていること

<休養日>

平日 1 日以上，週末は月に 1 日以上（年間計 7 3 日以上）

<活動時間>

平日：3 時間程度，学校の休業日：4 時間程度

※この場合でも，1 週間の活動時間は計 1 6 時間程度



◇ 学校の取組

- ・校長は「学校の部活動に係る活動方針」を策定・公表するとともに、校内の部活動に係る相談・要望の窓口を設置します。
- ・年間および月間の活動計画等を配付するなどして、保護者・生徒の理解を得ながら指導します。
- ・生徒の心身の健康管理，事故防止，体罰・ハラスメントの根絶を徹底します。

◇ 家庭や地域での取組

- ・部活動休養日等の設定などの学校の取組に御理解いただきますとともに，学校と家庭・地域が連携しながら部活動に取り組める環境づくりに御協力をお願いします。

部活動の方針の全文については，市教委ホームページをご覧ください。

函館市教育委員会

令和 5 年 1 2 月

○部活動方針に関する Q&A

Q この方針に記載されている休養日や活動時間を守らなければならないのか？

本方針は、国のガイドラインおよび北海道の部活動の方針に則って策定しており、各学校においても、**本方針に定める基準に基づいた主体的な取組が求められる**ものです。

Q 地域クラブ活動や小学校の少年団活動は、この方針では対象とならないのか？

本方針が定めているのは、学校教育の一環として行う、学校の部活動等に関するものであり、学校の管理下ではない地域のスポーツ・文化芸術団体等による活動は対象とはしておりません。

しかしながら、こうした活動においても、**児童生徒本人や保護者、指導者が、学校生活等への影響を考慮し、けがの防止や心身のリフレッシュを図るという観点から、休養日等に関する考え方を共有することが大切**であると考えております。

Q 方針で設定された活動時間では、大会等や練習試合、合宿もできなくなるのではないのか？

大会等や練習試合、合宿の場合、1日の活動時間の上限を、やむを得ず超過することも考えられますが、一方で、生徒のバランスの取れた生活や、顧問の部活動指導に係る負担の軽減にも十分配慮する必要があります。

こうしたことから、**活動時間が3時間以上になる場合は、十分な休養を取ることができるよう、その後の休養日や活動時間を設定する**こととしており、大会等については、大会当日を含む1週間及びその前後の1週間の期間である計3週間において活動時間の平均が通常の週と同程度となるようにするなど活動時間を調整する必要があります。

また、練習試合や合宿中の活動などについては、1日の活動時間を超えない範囲で計画することが大切と考えます。なお、やむを得ず超過した場合には、十分な休養を取ることができるよう、例えば、練習試合当日を含む1週間及びその後の1週間の期間である計2週間において活動時間の平均が通常の週と同程度となるよう、休養日や活動時間を設定するなどの対応が必要となります。

Q 家庭や地域と連携し、理解を求めるべきことはどのようなものがあるのか？

学校と地域・保護者がともに子どもの健全な成長のための教育、スポーツ環境の充実および文化芸術等の活動に親しむ機会の充実を支援するパートナーという考え方の下で、例えば、次のようなことについて理解を求めることが大切です。

- ① 部活動は、生徒の自主的・主体的な参加により行われる教育課程外の活動であり、その設置・運営は学校の判断により行われるものであること。
- ② 「勝つこと」のみを優先し、目先の勝敗にとらわれ長時間の練習を行うことが子どものためにならないこと。
- ③ 学業や、部活動での学びや経験のほかにも、学校外の生活における多様な経験が子どもの成長にとって重要であり、バランスをとることが大切であること。